

2010年度 SCAN 発表論文

# 「魅力あふれる北海道観光の 広まり」

---

～アジア化する北海道～

北海学園大学

宮島ゼミ

須貝 美月

阿部 里紗

立石 芽衣

田中 優子

2010年12月

## 論文概要

私たちの班は、『魅力あふれる北海道観光の広まり』というテーマで北海道における観光の現状を調べてその問題点を調べた。道内・道外客別構成比をみると、道内客が 87.2%、道外客が 12.8%と意外にも道内客の割合が多いことが分かった。そこで今回私たちは 12.8%の道外客、中でも近年札幌の街中で多く見かける中国人観光客に興味を持ちそこに焦点をあて調査・研究した。

札幌で中国人をはじめとする外国人をたくさん見かけるのはなぜなのか、本当に北海道を訪れる観光客は増加傾向にあるのかを踏まえたうえで、どうしたらより多くの人々が北海道に興味を持ち観光をしに来てもらえるのか、そのためにはどのような政策が必要なのかを考える。

訪日来道者数（実人数）の推移をみると、2007年頃まで増加を続けていたが、2008年頃から減少している。訪日外国人来道者数の国別人数をみると、一番多いのが台湾、次いで韓国、香港となっており、台湾・韓国・香港だけで4分の3以上を占めている。宿泊客延べ数の多い市町村・観光入込客数の多い市町村ともに札幌市が1位だが2位以下の北海道の主要観光都市は札幌市の客数のおよそ半分となっている。政治的・天変地異などの問題が発生した場合に来道者数は増減するが、全体的には増加傾向である。これからも増加すると考えられるアジアからの観光客を北海道に呼び込むことが、北海道の産業の活性化に繋がるのではないだろうか。

中国人観光客の増加理由の一つとして中国観光ビザ緩和がある。中国に対して2000年に団体旅行のビザ発給を開始したが、2009年7月より個人旅行にもビザを解禁した。ただしそれには条件があり年収25万円（日本円で約325万円）以上の富裕層に対してである。だが2010年7月、富裕層に限らず中間層も対象とした。この緩和により個人観光ビザの発給対象が160万世帯から1600万世帯と10倍になった。

中国人観光客の道内での滞在日数を見ると、同じ日数でも団体観光客に比べ個人客は急いでたくさんの観光地を見てまわるよりも、一つ一つの場所をじっくり観光するという特性がある。そのためレンタカー等の利用も増加しており、国際免許証を利用しやすくするなどの措置もとられている。また、北海道各地を訪問する理由としては、中国で上映された人気ドラマのロケ地である阿寒湖を訪れたいといった声も聞かれる。外国からの観光客が観光しやすくなるよう、通訳の設置や外国語パンフレット・メニューの作成など店側も対策を行っている。これらのことを調査したうえで、実際の外国人観光客の声を聞くため、街頭での聞き取り調査も行った。その結果も参考とし、北海道に外国人観光客を増やすにはどうしたらよいかを提言する。

# 論文目次

---

## I 北海道の観光客

I-I 北海道の観光客について

I-II 研究対象

## II 訪日外国人観光客の分析

II-I 訪日外国人来道者推移

II-II 訪日外国人来道者の国・地域別内訳

II-III 観光入込者数・宿泊客延べ数の構成比較

## III 観光客変動の要因

III-I 中国人観光客増加の要因

III-II 外国人観光客のドライブ観光客について

## IV 外国人観光客への対応

IV-I 言語の違いに対して

IV-II 情報源として

IV-III 通貨に対して

## V 実地調査（アンケート）

V-I アンケート結果と分析

## VI まとめ

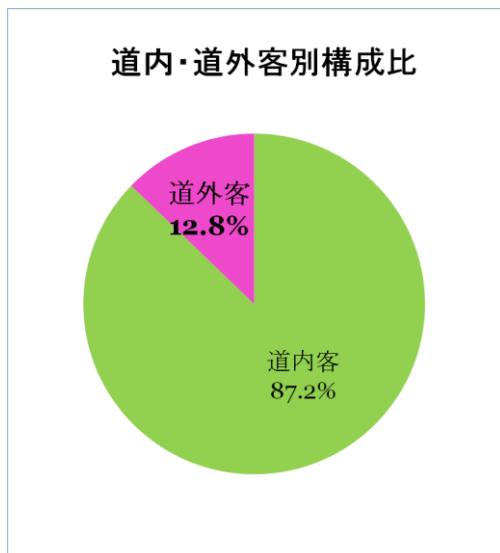
## 参考文献

# I 北海道の観光客

## I-I 北海道の観光客について

来道観光客を道内・道外別に比較すると、道内客が 87.2%、道外客が 12.8%で約 9 割が道内客である。道内客が 9 割を占めている要因は、「距離が近く自動車での旅行が楽しめるから」「距離的に近い分旅費も安くすむから」「土日しか休みがないので長期で旅行に出かけられない人でも可能だから」「道内に見どころがたくさんある」などが考えられる。

## I-II 研究対象



今回の研究では右図で 1 割程度にとどまっている道外客を対象とする。

その理由は、最近札幌の街中で外国人(中国人)旅行客を多く見かけることに疑問を持ったからである。札幌で外国人観光客をよく見かけるようになったのは何故なのか、本当に北海道に来ている観光客は増加傾向にあるのかを踏まえたうえで、より多くの人々が北海道の観光に興味を持つには、そして実際に観光に来てもらうにはどのような政策が必要かをこの研究で考えていく。

# II 訪日外国人観光客の分析

## II-I 訪日外国人来道者推移

訪日外国人来道者数は 2007 年度で約 71 万人、その前の数年で 10%~20%の増加を続けていたが、2008 年、2009 年と減少している。2007 年度の国・地域別の構成比では、「台湾」(39.0%) が最も多く、続いて「韓国」(23.8%)、「香港」(15.2%)、「シンガポール」(5.2%) の順に多く、アジア諸国の中では 2005 年度からシンガポール、2008 年度から中国の伸び率が著しい。

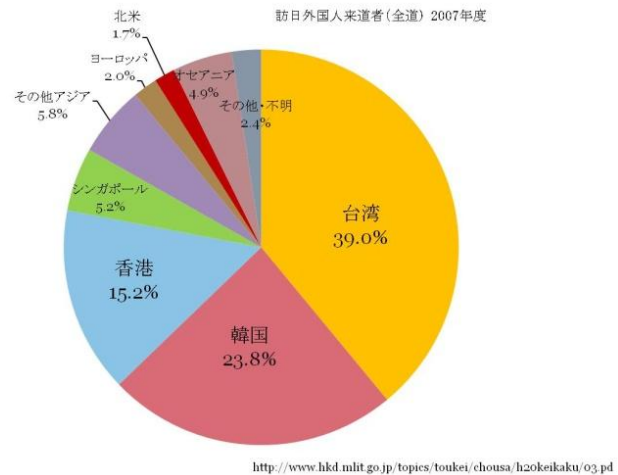
## II-II 訪日外国人来道者の国・地域別内訳

訪日外国人来道者の国別人数をみると、1 番多いのが 39.0%の台湾、次いで 23.8%の韓国、15.2%の香港となっており、台湾・韓国・香港だけで 3/4 以上を占めている。また、シンガポールからの観光客も増加傾向にあり、来道外国人の約 9 割はアジア圏の人々である。

また、ここ数年の外国人来道者数推移を見てみると、増減している時には何か政治的・自然的な事件（ビザ緩和、新型インフルエンザの流行など）が起きている。しかしここ数十年で考えると、全体的には増加傾向である。また2009年からの世界的不況下でも、中国の来道者数だけは急激に伸び続けている。

これからも増え続けるであろうアジア人観光客（特に中国）を北海道に呼び込むことが、北海道の観光、そして産業全体の活性化に繋がると考えられる。

訪日外国人来道者数の国・地域別入込者数内訳



## II-III 観光入込者数・宿泊客延べ数の構成比較

次に観光入込客数を北海道の圏域別にみると、2009年度では道央（7,370万人）が最も多く、続いて道北（2,219万人）、道南（1,035万人）、十勝（900万人）、オホーツク（810万人）の順に多い。一方、宿泊客延べ数を北海道の圏域別にみると、2009年度では道央（1,653万人泊）が最も多く、続いて道南（477万人泊）、道北（410万人泊）、十勝（187万人泊）、釧路・根室（184万人泊）の順に多い。

北海道の観光入込客数の多い市町村をみると、2009年度では札幌市（1,301万人）が最も多く、続いて小樽市（687万人）、旭川市（637万人）、千歳市（496万人）、函館市（433万人）の順に多い。一方、宿泊客延べ数の多い市町村をみると、2009年度では札幌市（948万人泊）が最も多く、続いて函館市（422万人泊）、釧路市（119万人泊）、登別市（117万人泊）、帯広市（88万人泊）の順に多い。

これらのことから、札幌や千歳などの大都市で、交通の便が良い所は観光入込客数が多いこと、そして、千歳空港や札幌などの交通の中心部から離れた所では宿泊する人が多いことがわかる。地方市町村の交通インフラ整備や、外国人観光客に対応した宿泊施設を増やすことによって、さらなる来道者数・宿泊数の増加に繋がるのではないだろうか。

# III 観光客変動の要因

## III-I グラフから読み取る観光客変動

・2004年の増加

前年度初めに猛威を振るったSARS感染地域の台湾、香港、中国からの来道者数は前

年度の大幅減の反動に加え、訪日査証発給等の緩和措置により大きく増加した。非感染国の韓国からの来道者数は、前年のSARS感染地域を避け旅行先を本道に振り替えたことによるプラス効果が消え微増であった。

【台湾】 SARSにより来道者数が減少した前年度の反動や高い北海道旅行人気に支えられ、道内各地へのチャーター便が大幅な増加となったほか、新千歳空港との定期便の増便の効果もあって大幅に増加した。

【香港】 SARSによる影響が解消されたことや北海道旅行人気に加え、4月からの訪日査証免除、定期便の増便や旅行料金低下効果もあって、大幅に増加した。

【中国】 都市部の急速な経済成長を背景に、北海道旅行人気の高まりもあったほか、中国人の訪日修学旅行参加者への査証免除や訪日団体観光旅行の査証発給対象地域が拡大したことにより、大幅に増加した。

【韓国】 前年度は、SARS感染地域を避け、旅行先を本道へ振り替えたため大幅増となったが、今年度は、中国など他のアジア地域との競合、猛暑によるゴルフツアーの手控えなどのマイナス要因が重なり、冬季は盛り返したものの、結果としては微増となった。

#### ・2008年減少

世界的な同時不況や急激な円高の影響により減少に転じ、現行の調査要領で調査を行った平成9年度以降では初めての減少となった。

【台湾】 これまでの長期に渡る増加トレンドが落ち着きを見せ、全体として小康状態であったところに、世界的な景気後退や円高台湾ドル安の影響が加わり、年度後半は大幅に減少した。

【韓国】 年度前半は前年同期比微増も、年度後半からの急激な景気後退による消費手控えに加え、通貨ウォン安も逆風となり、海外旅行全般が減少に転じたことから、通年ベースでは減少した。

【香港】 レンタカーを利用した旅行が好調であるなど、定期チャーター便が就航したことから夏から秋にかけての訪問者が大幅増。北海道の知名度が定着した上、景気後退などの影響による極端な落ち込みもなく、年間を通じて堅調に推移した。

【中国】 好調な国内経済を背景に海外旅行需要が基本的に拡大傾向にある上、平成20年3月に訪日ビザが家族観光を対象に発給できるよう緩和されたこともプラスに働き、さらに、北海道がロケ地となった中国映画の大ヒットが1～3月の追い風要因となり、大幅な増加が続いた

#### ・2009年の減少

新型インフルエンザの流行や世界的な不況や円高などの悪条件が重なり、全体としては前年同期に比べ大幅な減少となった。

【台湾】 5月以降の新型インフルエンザの流行や対円での台湾ドル安などによって日台間の

往来者が減少したことに加え、8月に台湾を直撃した大型台風が過去50年で最大級の被害をもたらし、社会的自粛ムードから旅行需要が冷え込んだこともあり、国別で最も大きな減少となった。

【韓国】年度当初は、国内景気の低迷と物価の上昇、対円でのウォン安、新型インフルエンザの流行とマイナス要因が重なり、前年比でほぼ半減であったが、夏場の需要期に向けてこれらの要因が改善してきたことから、減少幅は小さくなった。

【香港】平成20年秋に新たなエアラインの新千歳就航があったほか、レンタカー利用など個人客の旺盛な旅行ニーズに支えられ、世界的に旅行市況が悪い中でも、来道者数は比較的小幅の減少にとどまった。

【中国】国内景気的好調維持や訪日個人観光査証の解禁などを背景に、世界的に旅行需要が低迷する中、主要市場で唯一の拡大市場。本道の自然や温泉などが人気であるほか、道東を舞台とした中国映画の大ヒットなども追い風となって、全国を大きく上回る大幅な増加率を示した。

### III-II 中国人観光客増加の要因

ここでは中国観光ビザの緩和について触れていきたい。最初に緩和されたのは2000年で、これは団体旅行に限られていた。次に2009年7月に個人旅行が解禁されたが、年収25万(約325万円)以上の富裕層(企業の限られた役員など)に限定という条件付きであった。

しかしこれに続いて翌年の2010年7月、富裕層に限らず中間層も対象に加わり、かなり多くの中国人が旅行に来ることができるようになったのである。具体的に述べると、個人観光ビザの発給対象がこれまでの160万世帯からなんと10倍の1600万世帯まで拡大した。

この背景には、中国人の平均購入額が11万7000円と欧米人の2倍以上の金額をたたき出していることが挙げられる。日本に来て電化製品などの比較的高価なものをバンバン買う傾向からみてこの金額は納得であり、これらの影響で中国人が日本での観光で使う金額は、年間で1兆円規模になる可能性もあるとされている。

### III-III 外国人観光客のドライブ観光客について

このような観光ビザの緩和の影響で個人旅行する観光客がレンタカーを利用するケースがかなり増えてきている。また、2007年9月からは台湾人観光客の日本国内での運転が可能となっており、今後一層のドライブ観光の増加が見込まれるだろう。団体観光客の平均訪問地数はドライブ観光客の約1.4倍であり、同じ4泊5日の行程の中でもドライブ観光においては急いでたくさん場所を見るよりも、一つ一つの訪問地をじっくり見てまわるという特性がある。また、団体観光客に比べドライブ観光客の方が滞在日数が長くなる傾向があり、平均滞在日数で見ると、団体観光客は4.99日でドライブ観光客は6.92日である。具体的に訪問地別でみると、道内を訪れる外国人団体観光客の主な訪問先は「札幌」「小樽」「洞爺」「登別」「昭和新山」などが上位となっていて、北海道の代表的な“都

市観光“の拠点である「札幌」や「小樽」と、有名温泉地である「洞爺」「登別」が人気の高い観光地である。一方、レンタカーを利用する外国人観光客の訪問先は、外国人団体観光客の主な訪問先と「札幌」「小樽」「登別」は共通しているが、「富良野」や「美瑛」が上位に入っており、団体観光客があまり訪れない地方への訪問比率が高い。ドライブ観光客は、美瑛のような農村景観や自然景観などの風景を見ることができるエリアを好む傾向があり、団体観光客の人気訪問地以外のエリアを訪問することが多いことがわかる。

別の観光客動員の例を紹介すると、これは2008年の話のだが、12月に中国映画「非誠勿擾」(フェイチェンウーラオ:狙った恋の落とし方)が上映され、封切り直後から人気を呼び、興行収入はなんと3億元(約412億円)を突破した。この上映にあやかって、北京発ロケ地ツアーなどが行われ、この映画の舞台である阿寒湖の阿寒湖温泉では観光客が13倍にもなったという例もある。

リーマンブラザーズの倒産やインフルエンザなどで減少しつつあった道内観光もこのような映画の上映や観光ビザの緩和の影響でかなり活気づいてきたと言えるだろう。

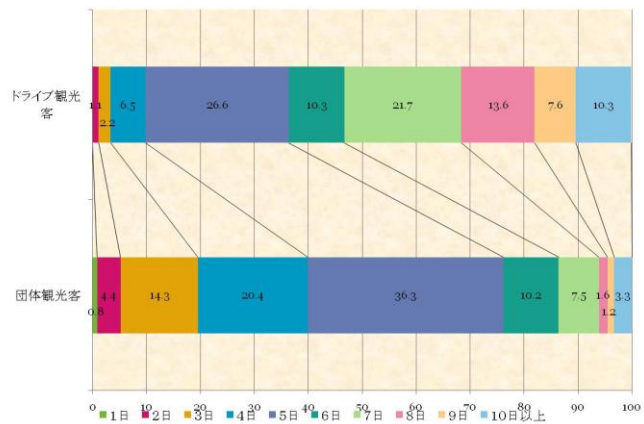
## IV 外国人観光客への対応

### IV-I 言語の違いに対して

ここで外国人観光客への対応を見てみると、近年増加傾向にある外国人観光客のために、札幌をはじめとする主要観光地では外国人観光客に少しでも快適な旅をしてもらうために様々な対策をとっている。

今回私たちが焦点を当てたのは中国からの観光客なのでおもに中国人観光客へ対するサービスを調査した。駅にあるみどりの窓口やデパートに中国語と日本語の二ヶ国語が話せ

外国人観光客の道内での滞在日数比較



訪問先の比較





るスタッフを配置し、観光客が言語の違いに困惑することなく電車のチケットを買うことができ、買い物を楽しむことができる。街中の各インフォメーションセンターでも通訳がいる。通訳は日本人の場合もあるが、日本に留学している留学生であることも多い。また日本語がわからない人のために、観光ガイドやフロアガイド、レストランのメニューに中国語版が設置されている。その他、英語版・韓国語版も同じく作成されている。



また北海道内携帯電話レンタル事業というサービスもある。中国語・韓国語対応のコールセンターを無料で利用でき(通話料のみ自己負担)、携帯電話本体は新千歳空港・旭川空港・釧路空港をはじめ道内6か所の道内主要空港のチェックインカウンター前で受取り・返却が可能である。通訳と快適な旅行をサポートしてくれるコンシェルジュといつでも通話し、必要な情報を得られる。それは国内通話だけでなく、国際発信も可能である。携帯電話レンタルの基本料金は1日900円・10日間7000円で以後1日に月700円・1か月15000円で以後1日に月500円、国際発信の通話料に関しては別途15%の手数料がかかり中国は1分8円となっている。

#### IV-II 情報源として

中国人向けのフリーペーパー『Enjoy Japan』も発行されていて、中国・上海の旅行代理店約180店舗で設置・配布されている。この『Enjoy Japan』は実際に日本にまで携帯してもらええるツールとして、クーポン情報を主体に持ち運びのしやすい版型で仕上げられてある。中国人の目線で作成されており、日本へ旅行に来る前に旅行プランに組み込んでもらうチャンスと考えられている。



#### IV-III 通貨に対して

外国人が利用できる銀行ATMとクレジットカードについては、台湾銀行ATMが設置されている。設置場所は新千歳空港国際ターミナル・ビックカメラ札幌・すすきのラフィラ等である。このATMは北海道銀行が2010年1月27日に設置し、北海道銀行本店地下でも利用できる。台湾銀行ATMでは台湾の銀行口座から日本円で現金が引き出せ、台湾銀行以外に台湾土地銀行・華南銀行・玉山銀行など大手銀行9社のカードが利用できる



##### ●当初提携する台湾の金融機関名 (全9行)

- |           |         |           |
|-----------|---------|-----------|
| ・台湾銀行     | ・第一商業銀行 | ・兆豊国際商業銀行 |
| ・台湾土地銀行   | ・華南商業銀行 | ・台湾中小企業銀行 |
| ・合作金庫商業銀行 | ・彰化商業銀行 | ・玉山商業銀行。  |

また、中国国内には銀聯という中国国内の銀行を結ぶ決済ネットワークがある。銀行口座と直結した銀聯カードで買い物をするとその金額がそのまま銀行口座から引き落とされるという仕組みである。現在発行されている銀聯カードは約 21 億枚以上で利用できる店舗も世界中で約 227 万店である。中国国内では約 167 万店で利用でき、これは VISA や Master Card など国際ブランドが利用できる店舗数の 3 倍以上である。銀聯カードがこれほどまでに普及した要因は中国ではクレジットカードが普及していないことと、5 千万米ドルまでという海外への外貨持ち出し規制があげられる。北海道内で銀聯カードが現在、利用できる店舗は約 1000 店で、大丸札幌店・ビックカメラ札幌、ドン・キホーテ、マツモトキヨシ、JR 北海道などである。2011 年 2 月には、北海道観光振興機構が銀聯カードが使える道内の約 800 店が掲載されている無料ガイドを作成し配布する予定だ。銀聯カードを利用できる店は増加してきているが、利用が大型店などに限られている、円を引き出せる銀行・ATM が限られているなど問題点も存在する。今後こういった問題を改善するためには、土産屋



をはじめとする中小規模の店でも銀聯カードを利用できるようにする、もしくは、中国の自国通貨（元）から日本円に両替できる両替所を増やすなど、外国人の来道者によりお金を使ってもらえる状況にすることが今後の課題ではないだろうか。

## V 実地調査（アンケート）

### V-I 調査の結果

今回発表するにあたり、外国人観光客の声を生で聞こうと 2010 年 11 月 27 日土曜日に札幌駅周辺、大通り、狸小路にて中国人観光客を対象に須貝・阿部でアンケート調査を行った。アンケートは班のメンバー全員で出し合った質問を同大学に在籍する中国人留学生の方の協力のもと翻訳してもらい、それを清書したものをコピーし聞き取り調査を行った。

調査中は、言葉や文化の壁があったものの、中には日本語や英語の話せる外国人観光客の方々が数名おり、中国語の場合は主にジェスチャーを交えて会話した。やはり一筋縄ではいかなかったが、北海道を訪れた観光客ならではの視点での意見を聞くことができた。

#### アンケート内容

- ◆ 中国のどの地域から来ましたか。（都市の名前でもいいです）
- ◆ 日本に来るのははじめてですか。  
2 回目以上であれば頻度はどれくらいですか。
- ◆ 何故北海道に来ようと思ったのですか。どこに魅力を感じましたか。
- ◆ 人気のある行事はありますか。

- ◆ また北海道に来たいと思いますか。
- ◆ 観光としてどこへ行きますか。
- ◆ 何を買いますか。また、何を買いましたか。
- ◆ いくらくらいお金を使うのか。  
(買い物と食事で使う平均金額はいくらくらいですか。)
- ◆ お土産の1番人気はありますか。
- ◆ 電化製品は買いますか。電化製品は魅力的ですか。
- ◆ 北海道で好きな食べ物はありますか。(ジンギスカンは食べますか。)
- ◆ 日本のブランドでは何が人気ですか。(化粧品または服)
- ◆ 尖閣諸島問題について意見をお願いします。

## 結果

中国・香港・台湾などの地域から来た人ばかり、初めての人から何回も来ている人まで様々であった。訪問地としては札幌、旭川、登別、函館、富良野、阿寒湖など有名な観光地が多く挙げられている。北海道の魅力を知ったところ環境が良いという意見が多く、北海道の映画を見てきた人もいた。初めて訪れた人には電化製品は魅力が高いようであった。

注目したいのが「また北海道に来たいですか」という質問に対して全員「はい」と答えているところで、これは北海道観光に魅力があることが表れているといえ、これからの発展が見込めるだろう。

● 調査問巻 ●

我们是在做关于外国观光客的调查研究的大学生。  
可以耽误你一点的时间调查吗?

◆ 旅行  
\* 您从中国的哪座城市来?(城市的名字也可以)  
\* 是第一次来日本吗?如果不是第1回的话,是第几回呢?  
\* 为什么来到北海道?你觉得哪里对您来说有魅力?  
\* 北海道的活动您有喜欢的吗?(例:滑雪)  
\* 以后还会想来北海道吗?

◆ 观光  
\* 想去哪处景点观光?  
\* 您想买什么或者已经买了什么?  
\* 花了大概多少钱。(平均花多少钱 在购物和用餐上面?)  
\* 最喜欢的纪念品是什么?  
\* 有带家电用品的打算吗?电器最吸引的地方是什么?

◆ 如果有时间的话  
\* 最喜欢北海道的食物是什么?(您吃烤肉吗?)  
\* 您最喜欢哪件日本的品牌?(化妆品或者服装)  
\* 关于钓鱼岛问题您有什么想法

★ 谢谢★  
祝您旅途愉快!

## VI まとめ

私たちは以上の内容を調べたうえで、北海道観光に必要なことを挙げた。

- ・ 食事や買い物に困らないよう観光客向けにオススメレストランや店が載ったフリーペーパーの作成、配布する。
- ・ 長期滞在する外国人のために公共施設などにも中国語を話せる案内員を置いたり、中国語の案内板を置いたりする。
- ・ レストランなどのメニューに料理の写真を載せ、味付けの説明を表記する。
- ・ 個人旅行も増えてきているので、電車などで訪れる人のために空港や主要都市から地方に行く直通のバスを新設したり、本数を増やしたりする。
- ・ それぞれの観光地や駅などにもっと案内係を増員。

- ・観光地だけに限らず、病院や警察なども中国人に対応できるようにする
- ・地方の観光地は自然を推していることが多いが観光地間があまり近くはないので、効率良く回れるプランを紹介したり、交通の便を良くしたり地方の観光地もアピールする

ただこのような内容を実施するには以下のような問題の発生が考えられる。

- ・人件費などのコスト面の負担
- ・休日、外交問題などの面からの影響
- ・観光地各地の収容量
- ・事故、事件の増加

これらの点を踏まえたうえで、北海道観光でさらに外国人観光客を呼び込むためにはもっと幅広いサービスを取り入れるべきである。またはじめてくる観光客を増やすほかに、リピーターを増やす方法の模索の必要がある。

私たちは、北海道の観光は観光客を増やす面から考えて、北海道観光局などがマニュアルなどを設け、様々な企業に配布することにより外国人観光客に対するサービスの質を平均して向上させていくべきだと考える。

今までも各企業が独自のサービスを設けることで観光客が観光しやすい環境を作り上げてきたが、さらなる質の向上とサービスの方針の統一性を考えると、北海道観光局による先導の強化の必要性を感じた。

そして具体的な政策を考える中で調査結果を振り返った時、一番印象深かったのがレンタカーを使った観光であった。個人旅行客が増加している今日、もっと『交通手段を多様化すべき』である。

例えばシンガポールでは、レンタカー借りる際に、英語での道案内をしてくれるカーナビが車に搭載されているほか GPS 機能も搭載されています。ドライブ中に道に迷っても、レンタカー会社に電話をすれば現在位置を素早く確認し、正しい道順に導いてくれ、万が一トラブルが起こっても現場まで駆けつけてくれるサービスがある。

ヨーロッパの観光地では、ポップオン・ポップオフ (Pop on Pop off) という指定された有名観光地をおよそ 20 分間隔で回り、乗り降り自由な観光バスがある。利用するためには 1 日フリーパスを買う必要だが、バスには 6 カ国語対応の観光案内を録音したテープが内蔵されており、無料で貸し出されているイヤホンを使って説明を聞くことができる。

このように北海道でも他の国で行われている交通手段サービスを参考に実施することで、より観光客が増加するだけでなくリピーターの増加も期待できるのではないかと考える。

## 参考文献

---

### 参照 Web ページ

- 共同通信 PR ワイヤー  
<http://prw.kyodonews.jp/open/release.do?r=201001297340>
- 携帯電話レンタル事業-プライ  
<http://www.prai.co.jp/prai/keitai/index.htm>
- 札幌市役所公式ホームページ - City of Sapporo  
[www.city.sapporo.jp/city/](http://www.city.sapporo.jp/city/)
- 中国銀聯  
<http://jp.chinaunionpay.com/>
- 日経 BP 社の総合情報ポータル nikkei BPnet 〈日経 BP ネット〉  
<http://itro.nikkeibp.co.jp/article/NEWS/20100127/343848/>
- 北海道観光入込客数調査報告書  
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/irikomi.htm>
- 北海道経済部観光局HP  
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/301-irikomi/irikomitop>  
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/NR/rdonlyres/7E97C4F9-E5F0-4A7B-A833->
- 北海道における外国人ドライブ観光の推進方策検討調査  
<http://www.hkd.mlit.go.jp/topics/toukei/chousa/h20keikaku/03.pdf>
- enjoy japan  
<http://www.enjoyhokkaido.jp/service.html>
- JUNCO & CHEEP 公式サイト  
<http://junco-cheep.seesaa.net/article/120755677.html>